

今後の財政収支の見通し

平成25年 6 月



【目次】

	ページ
「今後の財政収支の見通し」策定の趣旨……………	1
1 歳入の見通し ……………	2
2 歳出の見通し ……………	3
2－① 県債残高及び公債費の推移と見通し ……………	4
2－② 主な社会保障関係費の見通し ……………	5
3 今後4年間の財政収支の見通し ……………	6
4 収支不足への対応 ……………	7
5 沖縄県財政の課題と展望 ……………	8
 (参考資料)	
① 今後の財政収支の見通し(数値編) ……………	9
② 推計の前提条件 ……………	10
③ 平成25年度当初予算における歳入の状況 ……………	11
④ 平成25年度当初予算における歳出の状況(目的別) ……	12
⑤ 平成25年度当初予算における歳出の状況(性質別) ……	13
⑥ 沖縄家の家計簿(平成25年度) ……………	14
⑦ 主な財政用語の解説 ……………	15

「今後の財政収支の見通し」策定の趣旨

1 趣旨

平成25年度当初予算を基礎として、一定の仮定の下で試算した今後の県財政の傾向（トレンド）であり、広く一般に公表し、県財政に対する理解を深めていただくものである。

2 推計期間

平成26年度～平成29年度（4年間）

※ 留意点

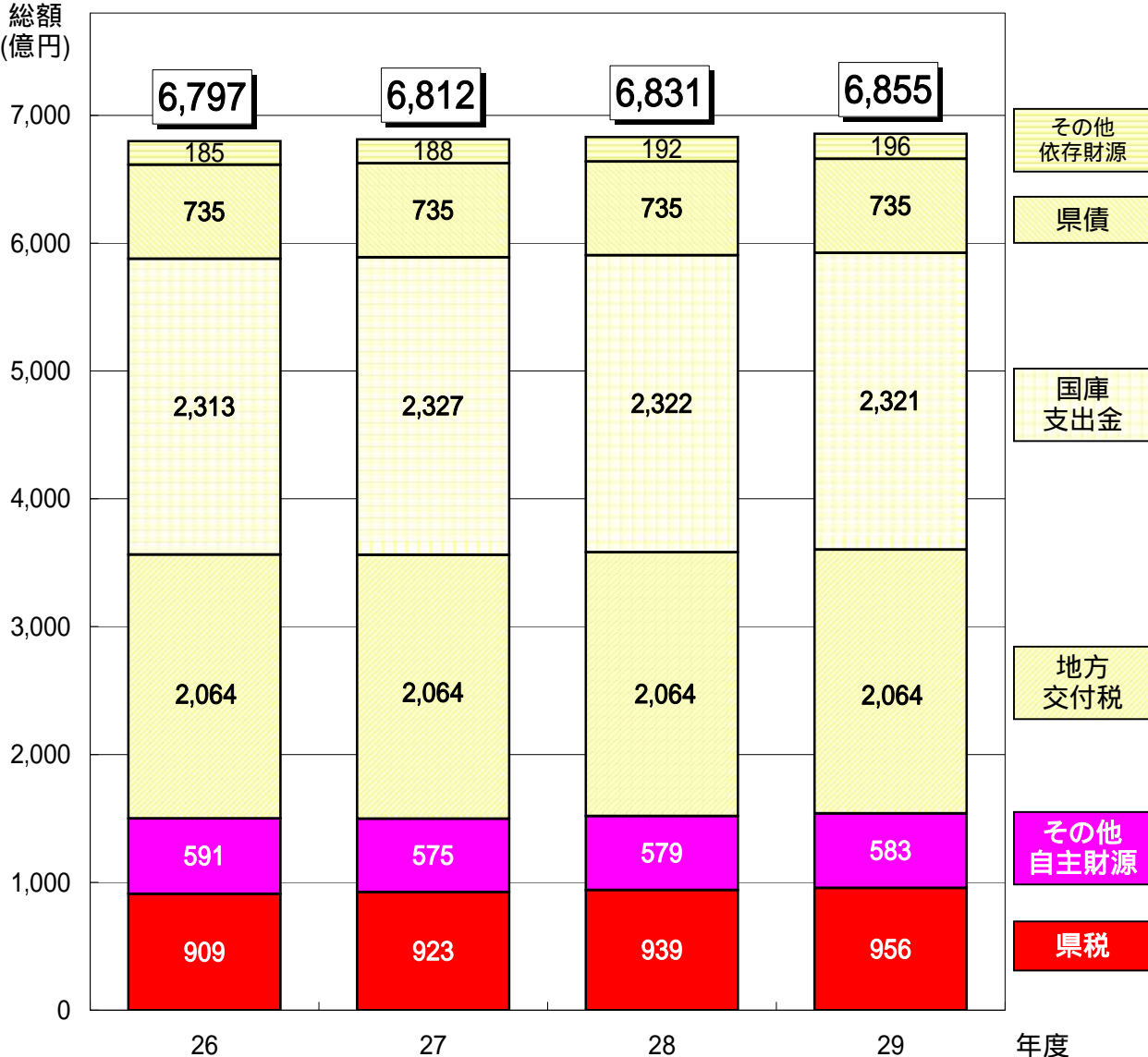
推計期間中の各年度の数値は、今後の経済情勢や国の地方財政対策等により変動するものである。

1 歳入の見通し

- 自主財源については、一定の経済成長を前提として、県税及び地方消費税清算金の増が見込まれる。
- 依存財源については、地方交付税、国庫支出金及び県債は一定規模で推移するものとして見込み、地方譲与税は一定の経済成長を前提として増が見込まれる。
- 自主財源及び依存財源とも増が見込まれ、全体としては緩やかな増加が見込まれる。

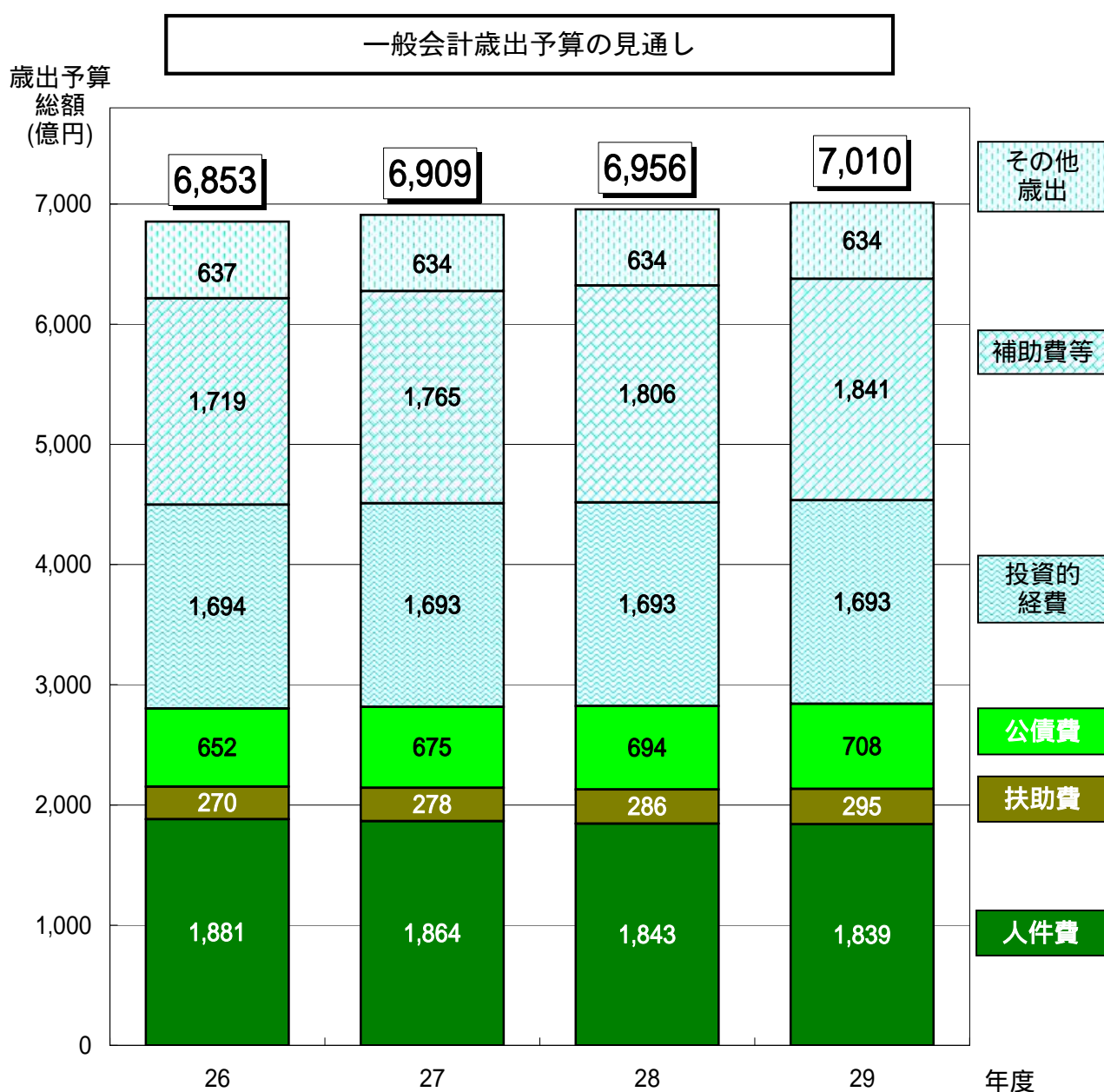
一般会計歳入予算の見通し

歳入予算
総額
(億円)



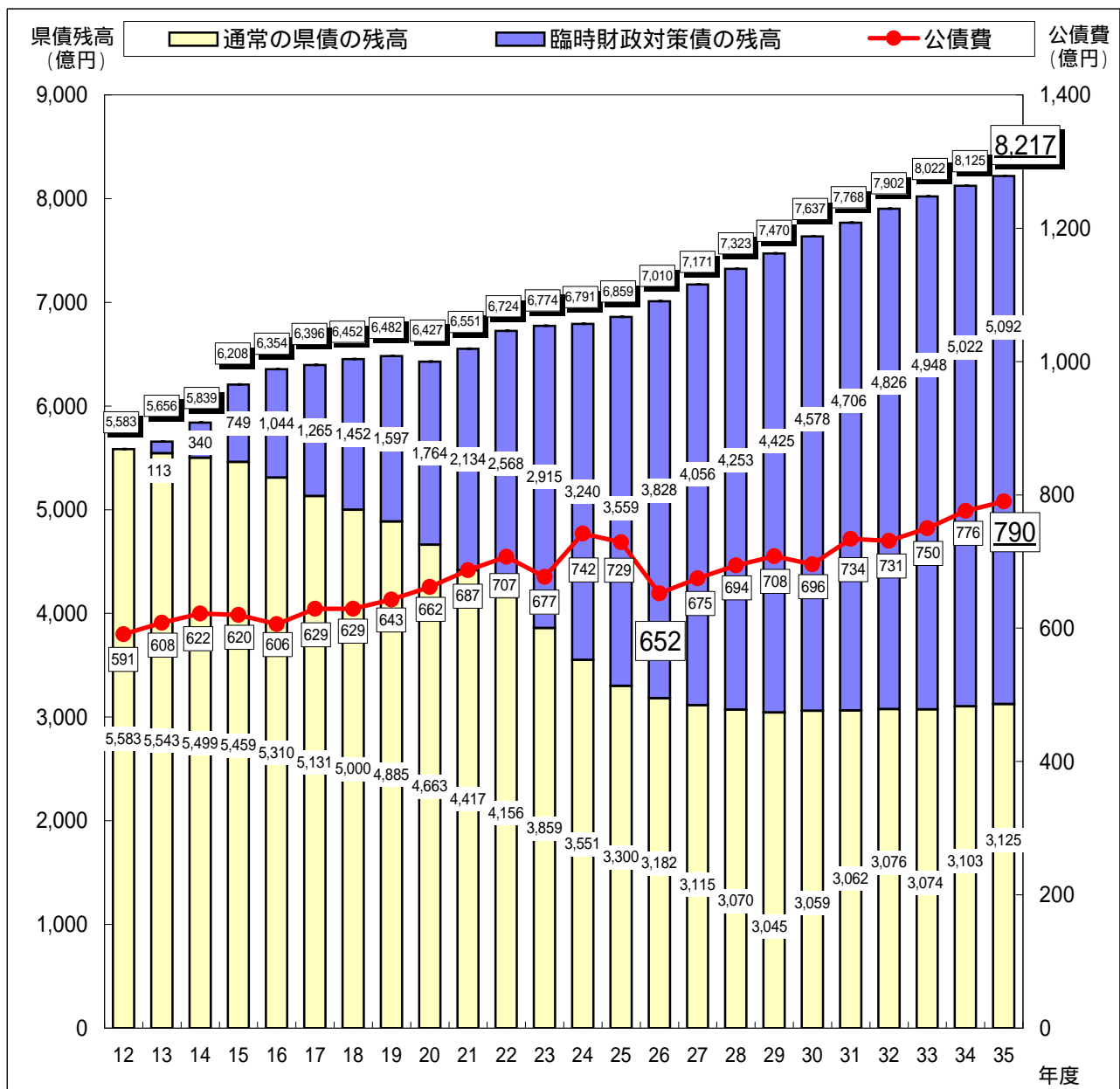
2 歳出の見通し

- 義務的経費のうち、人件費は高い水準で推移するものの、退職手当制度の改正により減少する。扶助費は生活保護費等の増に伴い増加し、公債費は臨時財政対策債の発行や沖縄振興一括交付金事業等の実施に伴う県債の発行により増となることから、全体としては緩やかな増加が見込まれる。
- 投資的経費については、経済対策関連基金の廃止が見込まれることから基金を財源とする普通建設事業費が減少する一方で、沖縄振興一括交付金事業の実施及び那覇空港第2滑走路の整備に伴い、一定規模で推移することが見込まれる。
- その他の経費については、社会保障関係費が大半を占める補助費等が高齢化の進行などに伴い大幅な増加となる見込みである。
- 全体としては、歳入を上回る増加が見込まれる。



2 - 県債残高及び公債費の推移と見通し

- 県債残高は、平成13年度以降に地方交付税の振替えである臨時財政対策債を発行してきたことにより年々増加しており、今後も増加する見込み。
- 平成12年度以降、臨時財政対策債を除く通常の県債残高は、公共事業の縮減や現行の新沖縄県行財政改革プラン等に基づく大型ハコ物整備の抑制に伴い減少してきたが、沖縄振興一括交付金事業の実施及び那覇空港第2滑走路の整備等に伴う県債の発行により、今後は一定規模の残高で推移する見込み。
- 公債費は、平成26年度の652億円から平成35年度には790億円に増加する見込み。また、県債残高は既に歳入予算額と同規模であり、今後も増加傾向にあることから、平成35年度には8,217億円に達する見込み。



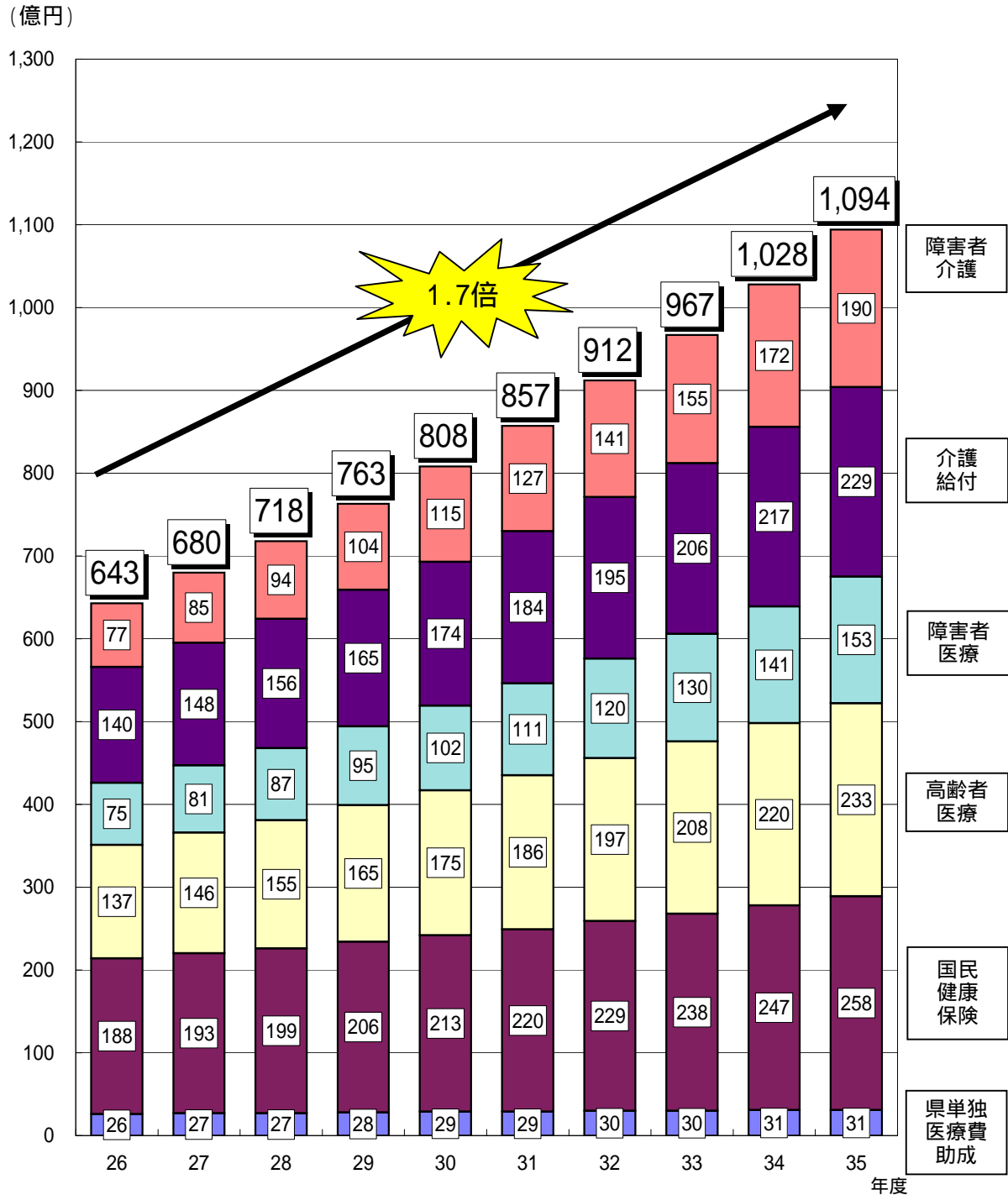
※H12～H23は決算、H24は最終予算、H25は当初予算、H26以降は推計

2 - 主な社会保障関係費の見通し

○ 高齢化の進行等に伴い、主な社会保障関係費は大幅に増加し、平成26年度の643億円から平成35年度には1.7倍の1,094億円に達する見込み。

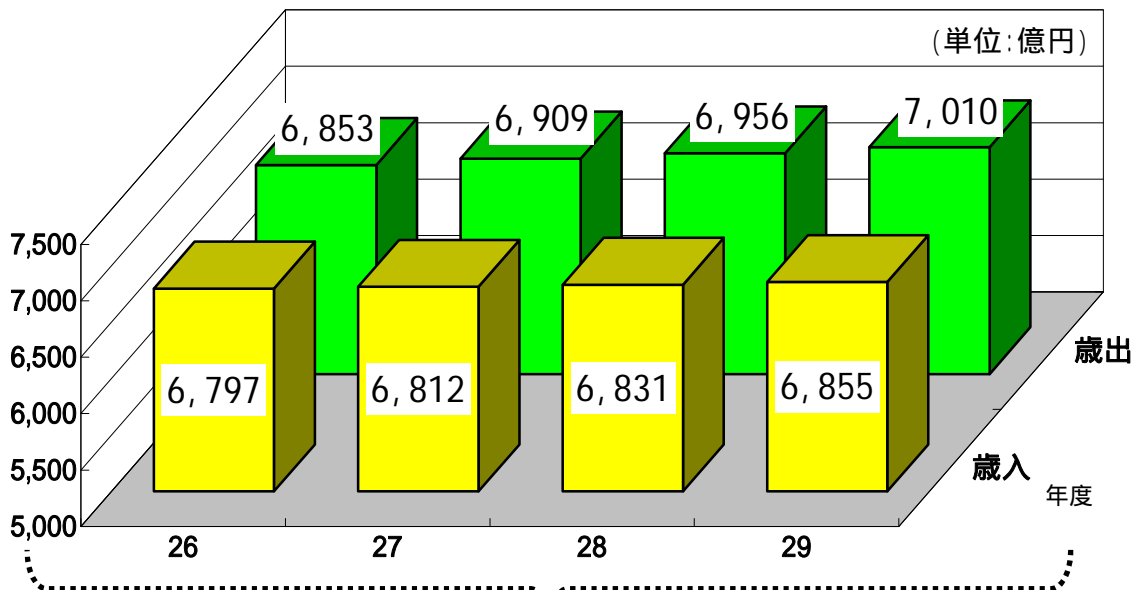
※ 主な社会保障関係費は補助費等に分類されるが、市町村等の支出に対応する県の負担分であるため、義務的な性質を有する経費である。

主な社会保障関係費の見通し

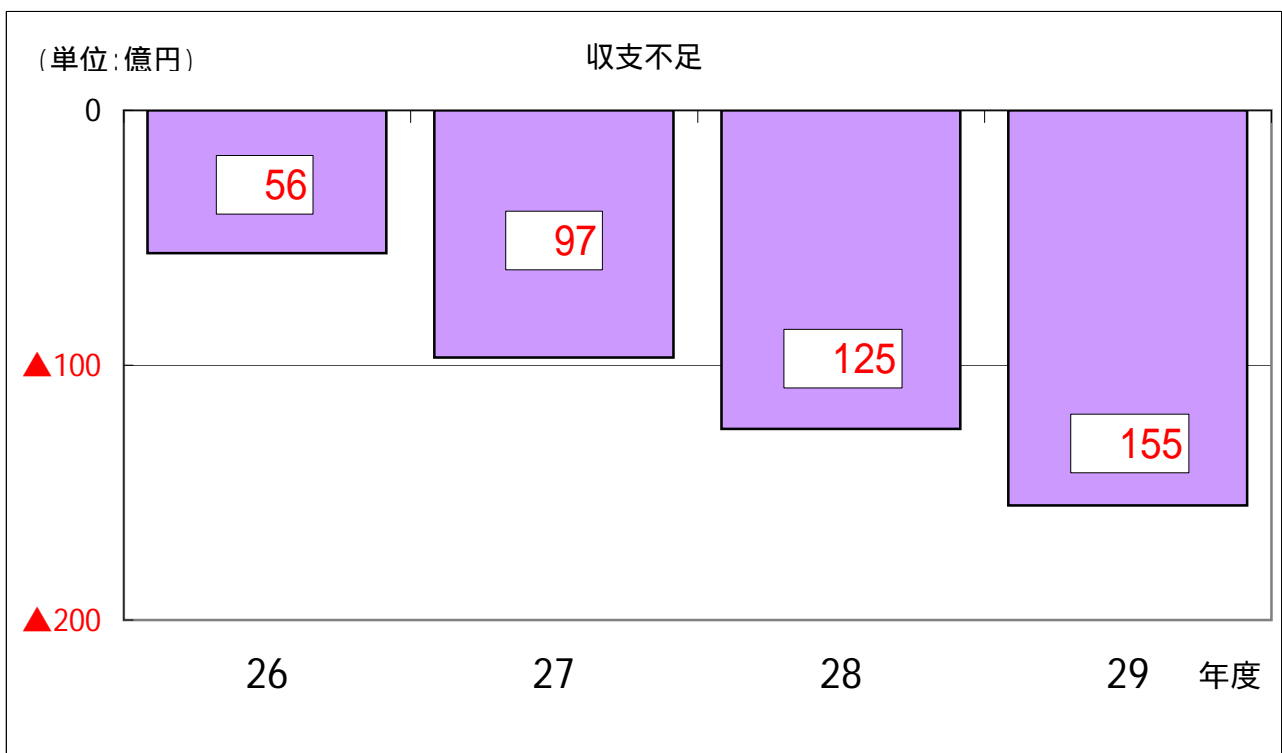


3 今後4年間の財政収支の見通し

- 歳入総額が緩やかに増加することが見込まれるが、他方、歳出総額は公債費や社会保障関係費等の増に伴い、歳入総額を上回る増加が見込まれる。
- このため、収支不足（単年度の財源不足）が拡大傾向で推移し、平成29年度には約▲155億円に達することが見込まれる。



$$\text{【 歳 入 】} - \text{【 歳 出 】} = \text{【 収 支 不 足 】}$$



4 収支不足への対応

- 収支不足に対しては、主要3基金の取崩しや退職手当債の発行などにより、推計期間中は、当初予算編成に対応できる見通し。
- しかし、県債の発行は将来への負担の先送りであり、また、主要3基金が枯渇すると緊急事態等に対応できない。

※ 平成29年度末主要3基金残高は98億円の見込み

- 沖縄21世紀ビジョンで県民とともに描いた将来像の実現と固有課題の克服に向けた施策を着実に推進するためには、持続力ある財政基盤の確立に努める必要がある。
- このため、新沖縄県行財政改革プラン(期間：平成22年度～平成25年度)に代わる次期プランの策定により、引き続き、歳入・歳出両面からの見直しを行い、適切な資源配分に努めていく必要がある。

(単位:億円)

年 度	26	27	28	29
収支不足	56	97	125	155

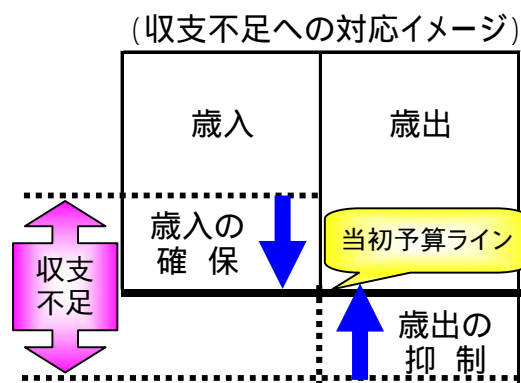
(財源対策)

歳入の確保	行革効果 ^{注1}	1	1	1	1
	H25の取組効果が引き続きものとした(次期プランの効果は今年度中に算出予定)				
	主要3基金の取崩し ^{注2}	15	56	113	143
歳出の抑制	退職手当債の発行 ^{注3}	29	29	-	-
	H28以降、発行できない				
	行革効果 ^{注1}	11	11	11	11
H25の取組効果が引き続きものとした(次期プランの効果は今年度中に算出予定)					
対策の計		56	97	125	155

(注1) 現行の新沖縄県行財政改革プランによる平成25年度の取組効果が、平成26年度以降も引き続きものとして試算

(注2) 主要3基金は、財政調整基金、減債基金及び県有施設整備基金で、平成25年度末残高合計(見込み)は425億円

(注3) 「退職手当債の発行」は、発行について限度額及び期限の定め有り



5 沖縄県財政の課題と展望

- 本県財政は、県税等の自主財源の割合が低く、国の地方財政制度に大きく依存した脆弱な構造であるとともに、義務的経費である人件費や扶助費の割合が高く、弾力性に乏しい構造となっている。
- 国・地方を通じた財源不足の中、地方交付税等の一般財源の大幅な増加が期待できない反面、社会保障関係費や公債費等の義務的な経費の増加に伴い、今後も継続的に収支不足が生じ、拡大していくことが見込まれる。
- さらに、病院事業の経営の安定化や、中城湾港（新港地区）をはじめとする臨海部土地造成事業における用地売却低迷などの懸念材料もある。
- このような厳しい行財政環境の中、沖縄21世紀ビジョンで県民とともに描いた将来像の実現と固有課題の克服に向けた施策を着実に推進するためには、歳入と歳出のバランスがとれた持続力ある財政基盤の確立が不可欠である。

このため、現行の新沖縄県行財政改革プランに引き続く次期プランの策定により歳入・歳出両面の見直しを継続して進めるとともに、沖縄振興一括交付金等を活用した産業振興施策に重点的に取り組むことにより、安定的な税源のかん養を図る必要がある。
- なお、恒常的に収支不足となる財政制度の問題については、県独自の歳入確保・歳出削減などの取り組みのみで対応することは困難であることから、今後とも地方自治体が健全で安定した行財政運営を行えるよう、社会保障関係費をはじめとした財政需要に見合う一般財源の確保について、引き続き、国に働きかけていく必要がある。

參考資料

今後の財政収支の見通し（数値編）

（単位：億円）

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
歳入総額	6,988	6,797	6,812	6,831	6,855
自主財源	1,795	1,500	1,498	1,518	1,539
県税	891	909	923	939	956
その他自主財源	904	591	575	579	583
依存財源	5,193	5,297	5,314	5,313	5,316
地方交付税	2,024	2,064	2,064	2,064	2,064
国庫支出金	2,291	2,313	2,327	2,322	2,321
県債	699	735	735	735	735
その他依存財源	179	185	188	192	196

歳出総額	6,988	6,853	6,909	6,956	7,010
義務的経費	2,882	2,803	2,817	2,823	2,842
人件費	1,899	1,881	1,864	1,843	1,839
扶助費	254	270	278	286	295
公債費	729	652	675	694	708
投資的経費	1,712	1,694	1,693	1,693	1,693
補助費等	1,718	1,719	1,765	1,806	1,841
その他歳出	676	637	634	634	634

収支不足 -	0	56	97	125	155
-----------	---	----	----	-----	-----

（参考）

歳入に占める 自主財源の割合	25.7%	22.1%	22.0%	22.2%	22.5%
-------------------	-------	-------	-------	-------	-------

歳出に占める 義務的経費の割合	41.2%	40.9%	40.8%	40.6%	40.5%
--------------------	-------	-------	-------	-------	-------

推計の前提条件

【推計の考え方】

- 平成25年度当初予算を基礎として、一定の仮定の下で今後の財政収支を推計
- 各年度の数值は、今後の経済情勢や国の地方財政対策等により変動
 - ※ 消費税率の改定の実施時期が確定していないことから、改定による影響は見込んでいない

【主な歳入】

- 県税・地方消費税清算金・地方譲与税：内閣府「経済財政の中長期試算」における経済成長率を参考に推計
 - ※ 経済成長率 平成26年度：2.6% 平成27年度：1.8% 平成28年度～平成29年度：2.2%
- 地方交付税：平成25年度当初予算額を基礎とし、一定額が確保されるものとして推計
 - ※ 交付税の減少要因となる県税等の増に伴う基準財政収入額の増加と、交付税の増加要因となる社会保障関係費の増に伴う基準財政需要額の増加が同程度であると仮定
 - ※ 地方が安定的に財政運営を行うことができるよう、必要に応じて国による別枠の加算等適切な措置が継続するものとして推計
- 国庫支出金：歳出の見込みに応じて必要額を積算
 - ※ 沖縄振興一括交付金は、平成25年度の水準（平成25年度当初予算における沖縄振興特別推進交付金の未計上分を含む）が推計期間中維持されるものとして積算
- 県債：臨時財政対策債は、平成25年度当初予算と同額。その他は、歳出の見込みにより推計

【主な歳出】

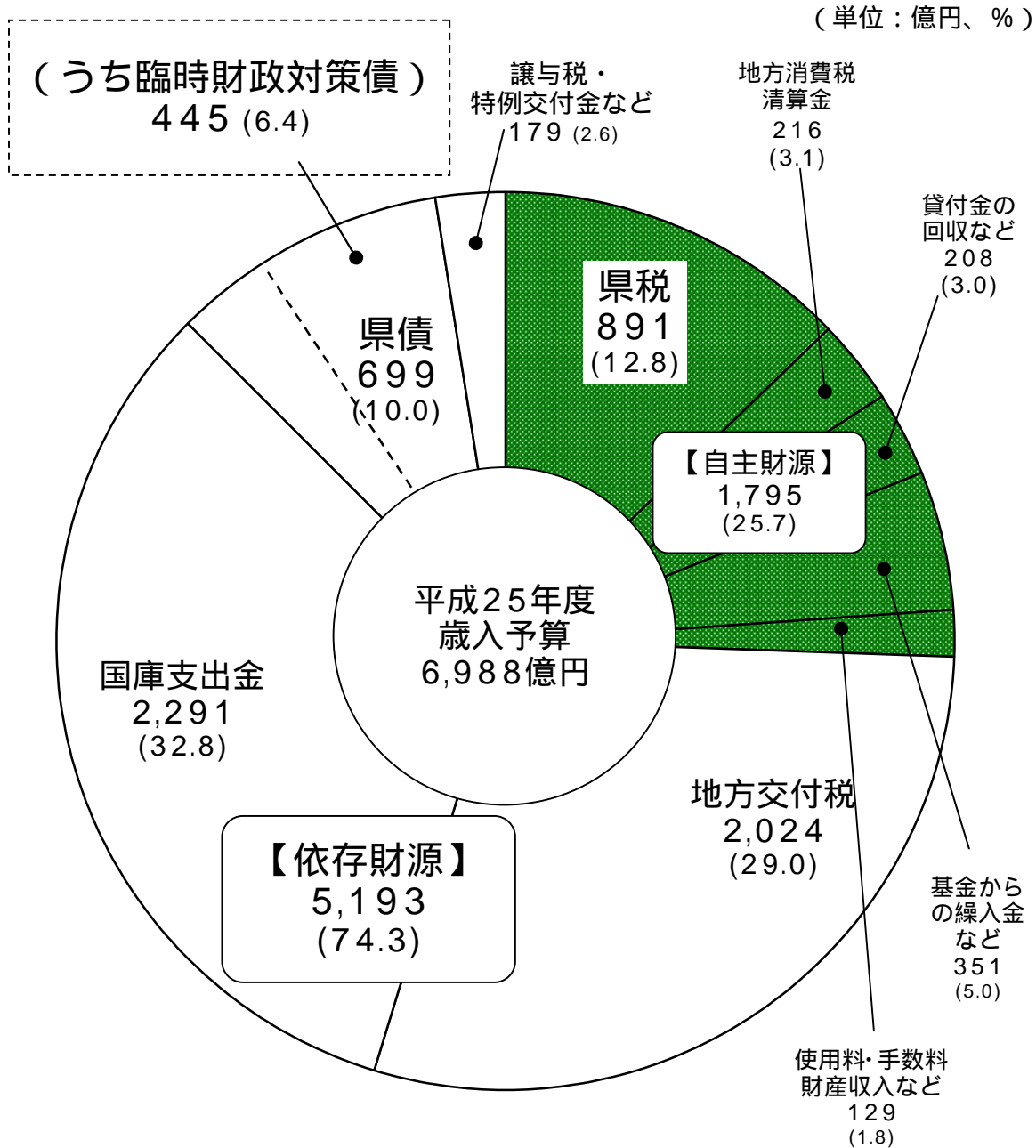
- 人件費：平成25年度当初予算額を基礎として今後の退職者数を勘案して積算
- 扶助費・補助費等：平成25年度当初予算額を基礎として今後の必要額を見込み積算
- 投資的経費：平成25年度当初予算額を基礎として今後の必要額を見込み積算
- 公債費：過去に発行した県債の償還予定額及び今後の県債の発行見込額から積算

【推計期間】



- 平成26年度から平成29年度までの4年間

平成25年度当初予算における歳入の状況

どんなお金が入ってくるの？



(注) 金額・%の合計は、端数整理により必ずしも一致しないことがあります。

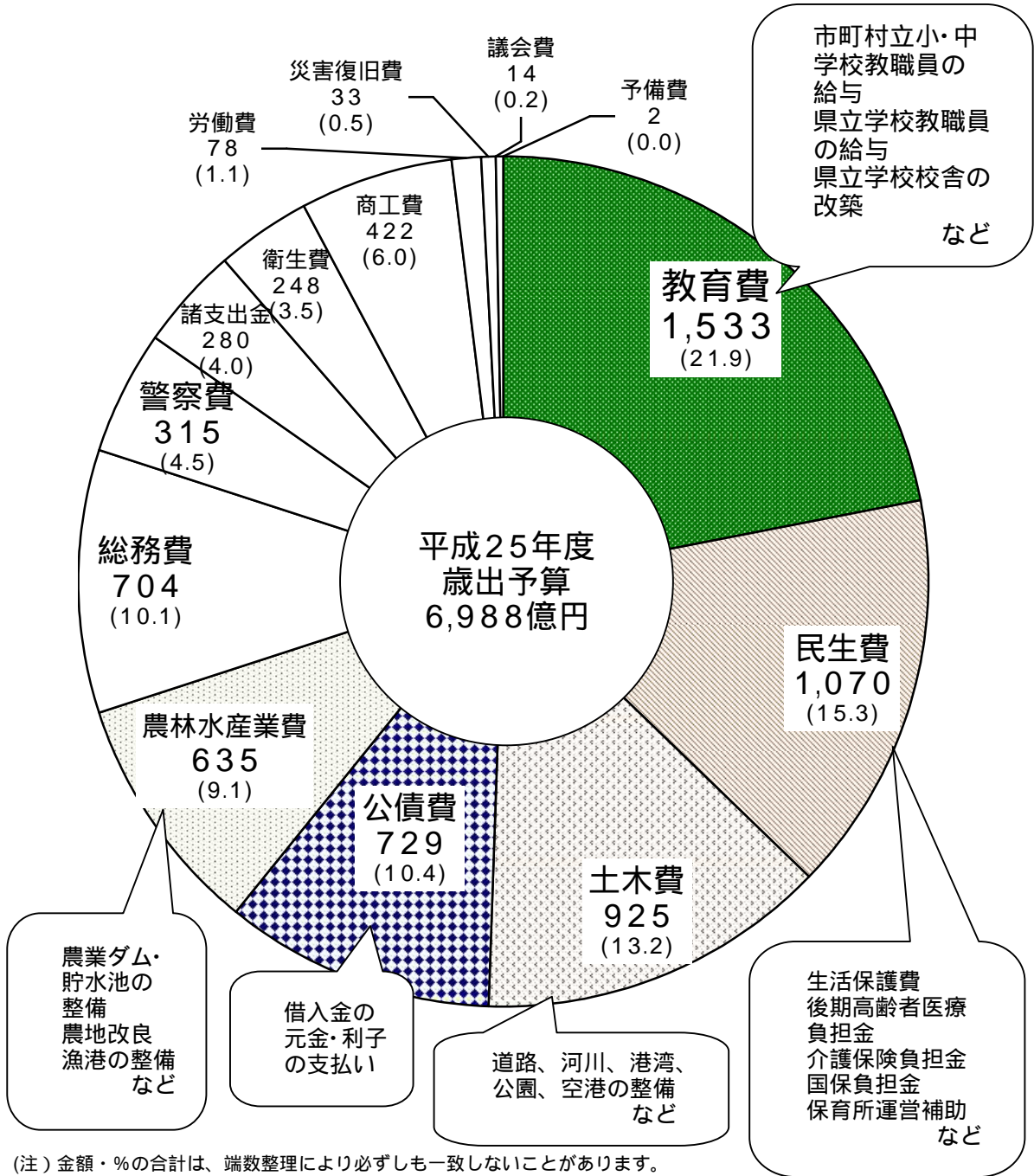
県税などの自主財源 () は 1,795億円で25.7%にとどまり、全体の74.3%を地方交付税などの依存財源 () で占めています。

また、国全体で地方交付税の財源が足りず、財源不足の穴埋めに県が借金をしています (臨時財政対策債)。ただし、その元金・利子は、来年度以降の交付税で全額補てんされることになっています。

平成25年度当初予算における歳出の状況（目的別）

県のお金は何に使われているの？

（単位：億円、％）

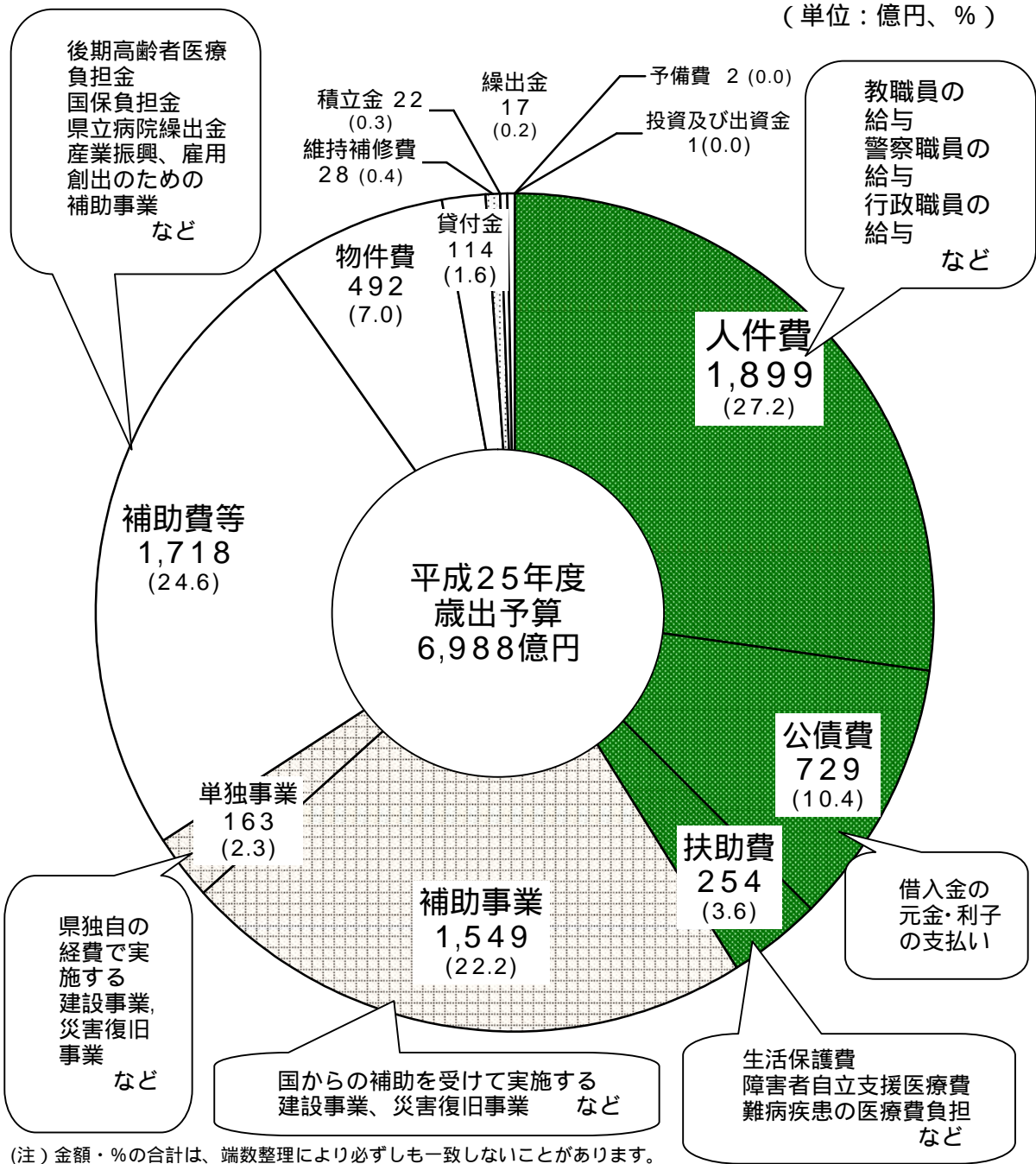


平成25年度一般会計予算における歳出6,988億円のうち、最も額が大きいのは教育費()1,533億円で、全体の21.9%を占めています。

以下、民生費()1,070億円で15.3%、土木費()925億円で13.2%、公債費()729億円で10.4%、などとなっています。

平成25年度当初予算における歳出の状況（性質別）

使いみちを経済的な性質からみると...



歳出を性質別にみると、義務的経費（）で2,882億円と、全体の41.2%を占めています。

投資的経費（）は1,712億円で24.5%、その他の経費（）は2,394億円で34.3%となっています。

沖縄家の家計簿（平成25年度）



本県財政を家計にたとえると？

予算額1,000億円 = 家計100万円

収入		支出	
<p>給与収入</p> <p>給料 (県税、財産収入 使用料・手数料など) 年額 365万円</p> <p>ボーナス (地方交付税、 譲与税など) </p>	<p>義務費</p> <p>食費 (人件費) 年額 190万円</p> <p>借金の返済 (公債費) 年額 73万円</p> <p>医療・介護保険料 (扶助費) 年額 25万円</p>		
<p>親からの仕送り (国庫支出金)  年額 229万円</p> <p>用途特定</p> <p>貯金取崩し (繰入金)  年額 35万円</p>	<p>節約中</p> <p>教育費・子どもへ仕送り (補助、繰出金など)  年額 174万円</p> <p>光熱水費・通信費 (物件費) 年額 49万円</p> <p>家・車・電化製品の買替、修理など (投資的経費、維持補修費など) 年額 188万円</p>		
<p>銀行借入れ (県債)  年額 70万円</p> <p>借金</p>			
年額 699万円	年額 699万円		

給与収入以上の借金を抱えている！

平成25年度末 貯金と借金の残高

貯金 (主要3基金) 43万円	借金 (県債) 686万円
-----------------	---------------

主な財政用語の解説

自主財源：県が自主的に徴収することができる財源のことで、県税、使用料及び手数料などがこれに当たります。



依存財源：国から定められた額を交付されたり、割り当てられたりした財源のことで、地方交付税、国庫支出金、県債などがこれに当たります。

一般財源：使いみちが特定されず、どのような経費にも使用できる財源のことで、県税、地方譲与税、地方交付税などがこれに当たります。



特定財源：使いみちが特定された財源のことで、国庫支出金、県債、使用料及び手数料などがこれに当たります。

地方交付税：すべての地方公共団体が、一定水準の行政サービスを提供できるよう、所得税、法人税、酒税、消費税及びたばこ税の一定割合の額を、国から地方公共団体に対して交付する税のことで、

国庫支出金：地方公共団体が提供する特定の行政サービスに対し、国から、負担金、補助金、交付金などの名称で交付される財源をいいます。

県債：一会計年度を超えて借り入れる長期借入金のことです。
なお、その返済金は公債費といいます。

地方譲与税：国税として徴収し、一定の基準に従って地方公共団体に対して譲与する税のことで、課税の便宜その他の事情から、徴収の事務を国が代行しています。

義務的経費：地方公共団体の歳出のうち任意に節減できない経費で、人件費、扶助費及び公債費のことをいいます。

投資的経費：地方公共団体の歳出のうち、その効果が資本形成に向けられるものをいいます。具体的には施設等の建設等に充てられる経費のことをいい、普通建設事業費、災害復旧事業費などをいいます。

扶助費：地方公共団体が各種法令に基づき、扶助を必要とする方の生活を維持するために支出する経費のことをいいます。生活保護援助費や児童保護措置費、精神医療事業費などをいいます。

補助費等：県から他の地方公共団体（市町村、一部組合など）や民間に対し、行政上の目的により交付される経費をいいます。具体的には報償費、保険料などの役務費、負担金、補助金などがあります。

地方消費税清算金：平成9年4月に導入された都道府県税である地方消費税の賦課徴収は、当分の間、国が消費税と併せて行い、各都道府県に払い込むこととされています。また、各都道府県は、国から払い込まれた額を消費に相当する額に応じて、相互間で清算することとされています。

地方法人特別譲与税：国は都道府県から集めた地方法人特別税を、地方法人特別譲与税として各都道府県に分配します。剰余額の2分の1を人口で、残りの2分の1に従業者数で配分しています。

公債費：県債の元利償還金及び一時借入金利子の合算額をいいます。

臨時財政対策債：国は地方公共団体に交付する地方交付税の原資が足りないため、不足分は地方公共団体が臨時財政対策債として借金ができるようにしています。また、国は臨時財政対策債の元利償還金に対して地方交付税を措置しています。

沖縄振興一括交付金：沖縄振興に資する沖縄の特殊性に基因する事業等の自（沖縄振興交付金） 主的かつ効果的な実施を図ることを目的として創設された交付金です。

正式な名称は、沖縄振興交付金といい、経常経費を対象とした「沖縄振興特別推進交付金」と、公共投資に係る「沖縄振興公共投資交付金」に区分されます。

経済対策関連基金：国の経済対策の施策を実行する目的で造成された基金のことをいい、基金の目的ごとに設置年限が定められています。経済対策関連基金の大半は平成25年度で終了する予定ですが、平成27年度まで活用できる基金もあります。

- 沖縄県の財政に関するお問い合わせやご意見は
沖縄県総務部財政課まで
TEL：098-866-2095
E-mail：aa006009@pref.okinawa.lg.jp
財政課のホームページ
<http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/somu/zaisei/index.html>

- 沖縄県の行政改革に関するお問い合わせやご意見は
沖縄県総務部行政管理課まで
TEL：098-866-2155
E-mail：aa003010@pref.okinawa.lg.jp
行政管理課のホームページ
<http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/somu/gyokaku/index.html>